

1000回 記念対談 美輪明宏×林真理子/医学部バブルがついに崩壊

週刊朝日



2・21
410円
オカダ・カズチカ

ゴースト血管、
夜間頻尿、花粉症
改善させる新習慣

コロナウイルス
世界恐慌が来る!

眞子さま結婚の
カウントダウン

10万円以上
**確定申告で
取り戻す**

年金、医療費、薬代、保険
払いすぎた税金

週刊朝日

2021年2月21日号
2020年12月1日発行 創刊4100号

発行人 日本女子大学
編集長 森下春枝

発行所 朝日新聞出版

〒107-8551 東京都港区赤坂4-1-5
03-3581-3163 (編集部)

定価 410円
本体 373円



日本女子大学
JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY

創立 120 周年を迎える 2021 年春、 人間社会学部が目白へ

創立 120 周年を迎える 2021 年 4 月、現在は西生田キャンパス（神奈川県川崎市）にある人間社会学部を、目白キャンパス（東京都文京区）に統合します。4 学部 15 学科と大学院を創設の地目白に統合し、文理双方を学べる女子の総合大学として学部や学科の枠を越え、学生たちが主体的に学びを深めることができる環境を整えます。

2019 年 4 月には新しい図書館と学生滞在スペースが開館。現在、教室・研究室棟と新学生棟（建物はいずれも仮称）を建設中です。学生たちが学びの中で自分の可能性を見つけ、知的好奇心を育み、研究を深めつつ社会と関わり、知的活動につなげていく環境をより一層整えてまいります。

Web 出願! センター試験利用入試 (後期募集) 出願期間 **2/12 (水) ~ 2/27 (木)**
※自校推薦: 3/7 (土) ※入学試験期間: 3/9 (日) ~ 3/17 (木)

- 【センター試験利用入試（後期募集）で出願できる学科】
- 家政学部 住居学科（住居環境デザイン専攻・建築デザイン専攻）、被服学科、家政経済学科
 - 文学部 日本文学科、英文学科、史学科
 - 人間社会学部 現代社会学科、社会福祉学科、教育学科、心理学科、文化学科
 - 理学部 数物科学科、物質生物科学科
- ※児童学科、食物学科（食物学専攻・管理栄養士専攻）は、後期募集を行いません。

トピックス/
2019 年有名 400 社 実就職率 全国女子大学 **1** 位
(卒業生数 1,000 人以上の大学。大学通信調べ)

日本女子大学 入学・広報部 広報課 〒112-8681 東京都文京区目白2-2-1 Tel.03-5681-3163 (直線)
ホームページ <https://unv.jwu.ac.jp/unv/>
4910200830207 00373 Printed in Japan
03-3581-3163 公益財団法人朝日新聞

障害者雇用促進法60年



S-POOL



単純な作業を長く続けるのはモチベーションの維持が難しい。障りの社員の精神的なケアも必要です。企業の仕事の中から切り出するのではなく、採利厚生と農業をつなげることで働く楽しさが生まれています。作物を作る農業は根源的な生業で、クリエイティブな要素があり、食べるよろこびを共有できます。届けられる野菜は本当においしい。社員にも好評で、感謝の気持ちを送るカードを農場に送るなど、ポジティブな連鎖が生まれています。受



知県の豊明市、みよし市、春日井市、東海市に加え、昨年2月にはさいたま市と障害者の就労機会拡大に関する協定を結んだ。10月、「わーくはびねす農園」を開設した。開園式で、清水角人市長がこうあいさつした。「障害のある方が、本当に元氣いっぱい笑顔で働いている姿を見せていただき、嬉しかったです。これからも生き生きと働き続けられるようにしっかりとサポートし、見守っていききたい」

これだ！と前進 福利厚生モデル

農業を活用した新しい障害者雇用として注目され始めている「わーくはびねす農園」だが、事業開始時から200件ほどの企業に回ったというエスプールの和田一紀社長(右)は「障害者と農業は親和性がある」ということを繰り返した。事業で、執行錯誤の連続で「初めは収益を出すモデル

を被りました。農業はそんなに甘いものではない。」「障害者を食い物にする新しいビジネス」という見方をされて、だれも信用してくれなかった。市原市に最初の農場ができたが、参加企業はなかなか増えない。成果の出ない営業活動が続ける中、17年企業の人事部長と話をしていたとき、「福利厚生で作った野菜を社員に配るなら、協議が進むかもしれない」と言われ、「これだ！」と思ったという。「しかし、うちのグループ企業も含めて社内であれ一人確保する人がいなかった。なので、福利厚生モデルを浸透させるのに大変苦労しました。知的障害者の方でも安心して働ける仕組みの構築にも苦心しました。12年暮れに大手企業1社が参画して、そこから徐々に広がりが出てきました」

障害者の保護者の意見を取り入れて、清潔で汚れない軽石を使った栽培方法を採用。管理者も「孫と接し

千葉県柏市の「わーくはびねす農園 柏ファーム」では企業が区画を借りて野菜作りを行っている。左はエスプールの和田一紀社長＝増井亨写す

健常者と障害者 つながる農業

「職場は貸農園

野菜作りで雇用確保」の試み

障害者雇用促進法ができて今年で60年。一昨年には中央省庁の「偽装雇用」が発覚するなど法の精神がなかなか浸透しない中、「仕事」に農業を組み込んで、障害者を持つ人たちの働く場を作る試みが注目されている。健常者と障害者をつなげる農業とは、「職場は農園」の現場取材した。

農行き30日ほどのビニールハウスが連続された広い空間の農場には、ハウスの区画ごとに企業名が書かれた看板が掲げられている。障害者の就労支援を行う「エスプールプラス」(本社・東京)が管理・運営する企業向けの貸農園「わーくはびねす農園」柏ファーム。様々な業種の企業が区画を借りて、各会社に雇用された障害者の社員が採利厚生事業として野菜作りに勤めている。

1社あたり3人の障害者と1人の健常者がチームを組んで、プランターを使って様々な作物を作る。収穫した野菜は自社に送られて社員に配られたり社員食堂で使われたりする。ワコスタジャパンの社員として2018年から柏ファームにある「ワコスタファーム」で働く乗取裕介さん(36)は、こう話す。「野菜を育てるのは手間がかかるけど、うまくできたときは楽しい。やりこえたえはあります。経験を積んで、野菜を主軸にもっと数を作っていききたい」

年々の2人の同僚男性社員とともにワコスタのプロジェクトがついた自社のプロジェクトを育てて作業にあたる。ワコスタファーム専務長の管理の指導を受けたが、小松菜、水菜、サンチュ、リーフレタス、ラディッシュ、ナスなど多くの品種を手がけてきた。17年閉園の柏ファームは、隣接する第2ファームと合わせて約2万6千平方メートル敷地に32棟のビニールハウスを展開する。農場は障害者が安全・清潔に作業できるように、様々な工夫が施されている。軽石の砂を入れた袋栽培で野菜を育てる。土を使わないため雨が降ってもなく、清潔な環境が保たれている。転倒時のけが防止のためにコンテナは発泡スチロール製。スコップなどの道具は軽く安全なプラスチック製が使われている。「わーくはびねす農園」は10年、千葉県市原市でスタートした。エスプールプラス社が障害者と作物作りを指導する管理者を募集して、企業に紹介する。雇用した企業は農園の「区画」を確保し、福利厚生事業として野菜を生産する。現在、千葉、愛知、埼玉の3県に18農園がある。今年1月の閉園まででは287社以上が利用し、就労人数は1671人以上。継続率は92%に上るといふ。

障害者雇用促進法は企業や行政に一定の割合で障害者を雇用することを義務付けている。企業の障害者の法定雇用率は18年に2.0%から2.2%に引き上げられ、来年4月までに2.3%になる。雇用率が達成できない100人超の企業は、不足する障害者1人当たり5万円(200人以上は今年度中に限り4万円)が徴収され、達成したときは超過1人当たり2万7千円が支給される。厚生労働省によると法定雇用率を達成している企業の割合は48.0%(昨年6月1日現在)。過半数の企業が達成できていない。「わーくはびねす農園」に参画するワコスタジャパンの人事最高責任者・高村竜也さんは言う。「障害者雇用は採用後にも課題があります。一般的なオフィス環境では担当していたく業務が限定され、